

## 1. 全体概況

2019年夏季スケジュール国際線航空輸送座席供給量は約3,673万席。昨年より約346万席（昨年比：110.4%）増加。航空会社別では、上位から全日本空輸 約405万席（構成比：11.0%）、日本航空 約315万席（構成比：8.6%）、チャイナエアライン 約150万席（構成比：4.1%）の順となった。

●海外就航地別ではTC1が約399万席（昨年比：100.8%）にて微増の一方で、TC2は約281万席（昨年比：113.7%）、TC3は約2,993万席（昨年比：111.5%）と大きく増加した。構成比ではTC1は10.9%、TC2は7.6%、TC3は81.5%で前年に比べ大きな変化はなかった。

●日本国内就航地別では、成田・羽田の首都圏2空港と関西空港を含めた国際線主要3空港では約2,745万席（昨年比：107.4%）の増加に加え、上記3空港を除いた日本国内27空港総計は約929万席（昨年比：120.3%）と大幅に増加した。

●FSC（フルサービスキャリア社）とLCC（格安航空会社社）別では、FSC総計は約2,658万席（昨年比：105.2%）に対し、LCCは約1,015万席（昨年比：126.7%）と大幅に増加した。LCCの構成比率は昨年より3.6ポイント増加し27.6%であった。

※通常、航空業界では輸送力を示す単位は座キロを用いるが、本レポートは、昨今の訪日旅行者の急増に対応した輸送力分析の基礎データとして活用するため座席数をカウントをした。尚、供給座席は各社のタイムテーブルから算出した計画座席数ため、実際の供給座席数とは異なる。

## 2. 各項目詳細

### (1) 海外就航地別

TC1： 約399万席 / 対前年比100.8% / 構成比率10.9%  
 TC2： 約281万席 / 対前年比113.7% / 構成比率7.6%  
 TC3： 約2,993万席 / 対前年比111.5% / 構成比率81.5%

#### TC1 詳細

- 座席供給量増加空港（5空港）：+約12.3万席
  - ◆前年比増便上位3空港
    - 1.ホノルル(+5.6万席) 2.シアトル(+5.5万席) 3.デトロイト(+0.8万席)
- 座席供給量減少空港（5空港）：-約9.2万席
  - ◆前年比減便下位3空港
    - 1.バンクーバー(-3.2万席) 2.シカゴ(-3.1万席) 3.サンフランシスコ(-1.9万席)

#### TC2 詳細

- 座席供給量増加空港（10空港）：+約41.7万席
  - ◆前年比増便上位3空港
    - 1.ヘルシンキ(+8.4万席) 2.ウィーン(+7.9万席) 3.ミュンヘン(+6.2万席)
- 座席供給量減少空港（1空港）：-約7.8万席
  - 1.フランクフルト(-7.8万席)

#### TC3 詳細

- 座席供給量増加空港（48空港）：+約339.1万席
  - ◆前年比増便上位3空港
    - 1.ソウル(+69.0万席) 2.バンコク(+47.2万席) 3.台北(+23.1万席)
- 座席供給量減少空港（15空港）：-約29.9万席
  - ◆前年比減便上位3空港
    - 1.デンパサール(-7.9万席) 2.サイパン(-4.4万席) 3.グアム(-4.0万席)

## (2) 日本国内就航地別

主要3空港（成田・羽田・関西空港）：約2,745万席 / 対前年比107.4%  
 日本国内空港27空港（上記3空港除く）：約929万席 / 対前年比120.3%

### 主要3空港 詳細

- ・**成田空港：約1,249万席／対前年比104.1%（+48.9万席）**  
 ◆前年比座席数増加上位3路線  
 1.ソウル線（+18.7万席）2.バンコク線（+8.8万席）3.香港線（+5.8万席）
- ・**羽田空港：約625万席／対前年比104.1%（+24.7万席）**  
 ◆前年比座席数増加上位3路線  
 1.シンガポール線（+5.8万席）2.北京線（+5.2万席）3.ウィーン線（+5.1万席）
- ・**関西空港：約870万席／対前年比115.4%（+116.2万席）**  
 ◆前年比座席数増加上位3路線  
 1.バンコク線（+18.8万席）2.ソウル線（+9.7万席）3.天津線（+8.2万席）

### 増加地方（6地方すべて増加）

### 国内27空港 （上記3空港除く） 詳細

- ・**九州・沖縄地方（国際線就航10空港）**  
 ：約433万席／席数対前年比117.0%（+63.0万席）  
 ◆前年比増加・横ばい：9空港  
 1.福岡（+36.4万席）2.北九州（+12.1万席）3.鹿児島（+6.6万席）4.沖縄（+6.3万席）5.熊本（+1.6万席）6.石垣（+1.0万席）7.佐賀（+0.5万席）8.宮崎（+0.1万席）9.大分（+0万席）  
 ◆前年比減少：1空港  
 1.長崎（-1.8万席）
- ・**中部地方（国際線就航5空港）**  
 ：約274万席／席数対前年比122.7%（+50.7万席）  
 ◆前年比増加：3空港  
 1.中部（+50.2万席）2.静岡（+1.0万席）3.富山（+0.3万席）  
 ◆前年比減少：2空港  
 1.小松（-0.5万席）2.新潟（-0.4万席）
- ・**北海道地方（国際線就航3空港）**  
 ：約156万席／席数対前年比128.3%（+34.4万席）  
 ◆前年比増加・横ばい：2空港  
 1.札幌（+32.8万席）2.旭川（+1.6万席）3.函館（+0万席）
- ・**東北地方（国際線就航3空港）**  
 ：約16万席／席数対前年比129.3%（+3.6万席）  
 ◆前年比増加・横ばい：4空港  
 1.仙台（+2.7万席）2.花巻（+0.9万席）3.青森（+0万席）
- ・**中国・四国地方（国際線就航5空港）**  
 ：約45万席／席数対前年比107.4%（+3.1万席）  
 ◆前年比増加・横ばい：4空港  
 1.高松（+1.6万席）2.松山（+1.1万席）3.米子（+1.0万席）4.岡山（+0.4万席）  
 ◆前年比減少：1空港  
 1.広島（-1.2万席）
- ・**関東地方（国際線就航1空港）**  
 ：約5万席／席数対前年比151.1%（+1.7万席）  
 ◆前年比増加・横ばい：1空港  
 1.茨城（+1.7万席）

### (3) FSC (フルサービスキャリア) とLCC (格安航空会社)

FSC実績 (72社) : 約2,658万席 / 対前年比105.2%

LCC実績 (28社) : 約1,015万席 / 対前年比126.7%

2019年構成比率 : FSC : LCC=72.4% : 27.6%

2018年構成比率 : FSC : LCC=75.9% : 24.1%

#### LCC 詳細

下記にアジア3路線におけるLCC座席数増加上位3路線は以下の通り。

・ソウル線LCC実績(6社) : 約290万席 / 席数対前年比123.1% (+54.5万席)

◆前年比増加上位4空港

1.成田(+15.8万席) 2.札幌(+14.1万席) 3.関西(8.1万席) 4.福岡(+7.9万席)

◆前年比座席数増加上位3航空会社

1.ジンエアー (+18.8万席) 2.イースター航空 (+13.2万席) 3.チェジュ航空 (+12.4万席)

・台北線LCC実績(8社) : 約131万席 / 席数対前年比111.2% (+13.2万席)

◆前年比増加上位4空港

1.関西 (+8.1万席) 2.仙台 (+3.0万席) 3.沖縄 (+2.2万席) 4.名古屋 (+1.3万席)

◆前年比座席数増加上位3航空会社

1.ピーチ (+9.1万席) 2.エアアジアX (+4.5万席) 3.エアアジアジャパン (+3.8万席)

・バンコク線LCC実績(4社) : 約105万席 / 席数対前年比197.1% (+51.8万席)

◆前年比増加上位4空港

1.関西 (+18.6万席) 2.成田 (+16.9万席) 3.名古屋 (+11.1万席) 4.福岡 (+4.5万席)

◆前年比座席数増加上位3航空会社

1.タイライオンエア (+19.2万席) 2.タイエアアジアX (+16.5万席) 3.ノックアウト (+16.2万席)